子育て支援事業

「児童・生徒の地域活動を充実するためのセミナー」報告

北海道札幌高等養護学校

はじめに

本校は平成１０年４月に開校したばかりの歴史の浅い高等養護学校で、学校の組織やＰＴＡの活動もこれからという状況の学校です。

子育て支援事業の「ボランティア養成講座」との関わりは平成１２年度、パイロット校の全国１０校のうちの１校となり、手探り状態で事業を実施しましたが、事業推進のための組織としては未だに未整備状態で、１３年度の継続事業として組織的、積極的に取り組めなかったのが現実でした。

このような学校事情もあり、平成１４年度のセミナー実施につきましては当初消極的な姿勢を取らざるを得ない状態で、本事業の中央本部委員の方々には大変ご迷惑やご心配をおかけしてしまいました。

この事業実施が決まりましてから特にＰＴＡを中心としてセミナーの成功に向けて取組を始めたわけですが、その過程においてＰＴＡ組織としての今後の課題が徐々に明らかになってきたと同時に、本校職員も生徒の卒後の支援についても真剣に考えなければいけないという意識の変革にも大いに役立ったと思っています。

さらに、セミナーの講話では、大変ご無理を言いまして本事業の委員長をされている永田直子様にお忙しい中わざわざ本校まで足を運んでいただき、貴重なご講話をしていただきましたことは、本校職員はもちろんのこと保護者や地域の方にとって大変有意義なことであり、今後の活動のエネルギーとなりました。この小さな点の活動が今後北海道に大きく広がっていくように、北海道知的障害養護学校ＰＴＡ連合会の事業として位置づけて組織的に活動を継続していくよう積極的に検討していきたいと考えています。

このように準備不足の状態でセミナー実施をしたわけですが、本校の取り組みやセミナーの内容について簡単に紹介したいと思いますます。

１　セミナー開催期日及び会場、参加人数

（１）開催期日　　平成１４年１１月１６日（土）

（２）会　　場　　北海道札幌高等養護学校　体育館

（３）参加人数　　本校保護者３４名、本校職員４０名、学校関係者及び一般４５名
計１１９名

２　日程

９：１５～　９：４５　受付

９：４５～１０：００　開会式

１０：００～１１：００　講話Ｉ　全知Ｐ連「子育て支援事業」中央運営委員長
永田直子

１１：００～１２：００　講話Ⅱ　北海道帯広養護学校長　秋山春雄
１２：００～１３：００　昼食・休憩（本校学校紹介ビデオ上映）
１３：００～１３：４０　実践報告Ⅰ　北海道札幌高等養護学校
１３：４０～１４：１０　実践報告Ⅱ　北海道星置養護学校
１４：１０～１４：４０　質疑・交流
１４：４０～１５：００　閉会式

３　内容

（１）講話Ⅰ　『地域で生きる』

全知Ｐ連「子育て支援事業」中央運営委員長　永田直子

＜講話の概要＞

「今日は委員長というよりは一人の親の立場で、皆様と何か共有できたらということで、親としての話ができたらと考えています。」ということから講話が始まりました。

ご自身、障害を持つお子さんを育てていく過程でのご苦労や、「たまごの会」「フォスター」などの仲間と一緒に活動したことなど、自ら積極的に活動してきたお話しだけに、生きた言葉で話され、会場はいつの間にか引き込まれていきました。

自分のお子さんの地域での活動の場を広げる活動をする中で、全知Ｐ連とかかわり「ボランティア養成講座」の運営委員長を務めることになりました。始めた頃はボランティアは養成するものではなく、自然に子どもたちの側にいてくださる方がボランティアだと強い信念のようなものがあったそうですが、東京学芸大学の松矢教授に「ボランティア養成講座というのは自ら希望して集まってきてくれるんです。この意味というのは本当に大きいんです。彼らは自己実現のために集まってくる。だから、集まってくるボランティアと一緒に遊んでもらう子どもたちが対等の関係なんだ。だからいいんだ。」の言葉に、初めてボランティア養成講座の意義をプラスに受け止めることができるようになったそうです。

出会いの大切さについて、「私自身を考えても我が子の障害と出会いました。それまではやっぱり他人事でした。この出会いは大きなチャンスだと思います。地域の人に知っていただく場やチャンスをつくていく。その役割は私たち親にあるのではないかと思っています。出会いがあればその中でいい関係が作れる。そのきっかけを私たちがアレンジしていく。親や先生方は本気になって子どもと格闘してしまう。私たちはボランティアさんにそこを求めるのではなく、子どもたちと一緒に並んでもらう、時間や空間を共有していただく、そのことが大事だと思います。その時に大きな壁になるのが、第３者に我が子を託せるか、という問題です。今学校は地域に開かれた学校を目指していますが、その中で親の気持ちが本当に開かれているのでしょうか。」と親の意識改革を強く訴えました。

「今教育は変わっていく中で「今後の特別支援教育の在り方」の中間まとめが出ました。これからは保護者も支援者の一人であります。子どもと同じ側にいるのではなく、子どもを中心に据え、学校や福祉、いろいろな支援者と同じ位置にいて子どもたちの支援をしていく。その意識の切り替えをしていかなければいけません。」

まだたくさんの貴重なお話しをいていただきましたが、紙面の関係でほんの一部を紹介しました。取組の基本的な姿勢について改めて考えさせられた講話でした。

（2）講話Ⅱ　『障害児の学校外活動』

北海道帯広養護学校長　秋山春雄

＜講話の概要＞

長い間社会教育行政でたくさんの経験をもとに、貴重な情報やご示唆をいただきました。

知育偏重の教育から、不登校やいじめ、少年犯罪の増加等が見られ、家庭や地域の教育力を見直す必要があった。さらにゆとりの中で生きる力の育成に向け、学校週５日制が検討された。社会も週休２日制への移行が予想されされ、休日に親子がゆとりの中で家庭での教育が期待された。しかし、その後の不景気から学校週５日制は実施されたが、親の週休２日制は後退していった。ここから新たな問題や論議が出されてきました。すなわち、子どもたちは土・日に家庭や地域にいるが親は働きに出かけて家庭にいない状況が増加することから、社会教育行政としても地域にいる子どもたちが安全で有意義な活動ができる場や機会を整備する必要性が出てきた。

しかし、社会教育行政は障害のある子どもを視野に入れていなかった。障害児（者）は福祉行政が担当していた経緯がある。社会教育行政には障害そのものに対する理解が不足している。さらに、福祉行政や特殊学級（学校）との連携も取っていない。最近その連携を取りながら活動を検討しつつある。ようやく具体的取組がされ始めたところである。

社会教育行政は学校以外で学び、活動したいと思っている人たちを支援する使命を持っています。ですから、皆さんがもっと社会教育行政に障害のある子どもたちに目を向けるよう、働きかけるべきです。この行政に一番の影響力のあるのは地域のニーズです。その意味でＰＴＡは大きな組織であるので声を挙げるだけで、皆さんが考える以上に行政を動かす大きな力となります。

障害のある子どもたちの地域活動事業として、『ウィークエンドサークル事業』というモデル事業を立ち上げました。

また、国や道立の施設でも障害のあるなしにかかわらず受入れて活動できる事業があります。ところが、北海道は広くて土・日にその施設まで足を運べる子どもや親は限られています。そこで市町村の取り組む事業に障害児（者）も受入れてもらえるよう要請し、一部ですが参加が認められるようになってきました。

社会教育行政や福祉行政は、道や市町村の財源でまかなわれています。それは、その地域のニーズがどれだけ強いかにより事業内容に大きな違いが出てくるということです。すなわち、地域レベルで要望やアクションを起こさなければ事業として認められないということです。

以上の行政の特性を十分理解した上で、５日制での子どもたちの活動の場や内容を見てほしいし、働きかけがいかに重要なポイントなのか知っていただきたいと思います。

長く行政に携わってきた方ならでわの貴重な講話に、改めて行政への働きかけの重要性を痛感致しました。

（３）実践報告Ⅰ　『ボランティア養成講座の実践から』

北海道札幌高等養護学校教諭　洞ヶ瀬岩雄　本庄千尋

平成１２年度全知Ｐ連子育て支援事業「ボランティア養成講座」の報告を、当時のビデオを流しながら報告しました。

（４）実践報告Ⅱ　『地域活動の充実に向けて（本校の実践から）』

北海道星置養護学校教諭　福井和彦

＜実践報告の概要＞

ある障害児学校での土・日の過ごし方に関するアンケートで、自宅で母親とテレビやビデオを見て過ごすと回答した人が一番多かったそうです。この結果からも障害児の土・日の活動の場が少ないことが分かります。

本校でも土・日の行事の持ち方について保護者にアンケートを実施しました。その結果、小学部低学年は圧倒的に日曜日開催を希望していました。理由としては父親が行事に参加できるということでした。中学部ではほとんど半数すつで、高等部になりますと土曜日開催を希望する保護者が多く、日曜日に休まないと生活のリズムが崩れる等の理由でした。本校の行事は今のところ土曜日開催が多くなっています。ＰＴＡの行事も土曜日開催が多いのですが今のところ反対意見も出てきていません。

本校のＰＴＡは専門部が４部門に分かれています。最近の流れとしてＰＴＡの中に支援部を設ける学校が増えてきていますが、本校はまだそこまで見直しをしていません。活動内容として、事務局主催の事業として『夏休みお楽しみ会』等があります。研修部では『陶芸教室』『ボランティアセミナー』等、広報部では『施設見学』等、寄宿舎部では『清掃活動』等を行っています。

地域活動として新しく『星置フェスティバル』『夏休みお楽しみ会』を実施しました。『星置フェスティバル』は、今までバザー中心の活動から地域の方も参加できるものへ発展させ、そこにボランティアも多数参加していただきました。

『夏休みお楽しみ会』はプール開放が中心でしたが、今年度はプール改装工事のため使用できず、親子で休みの一日を楽しむ会にしました。延べ１００名を超える参加者があり、近隣の児童会館に来ている子どもたちも参加しました。児童会館とは交流・連携を深めています。会館職員の障害児理解のための研修も実施、実際の授業に入ってもらうという形で行いました。それがご縁で各地区の児童会館とのネットワークも形成されました。

ボランティアセミナーは昨年度８回実施しました。その活動の中から『星の会』というボランティア組織も結成され、現在２０名弱の人数ですが、年間を通して学校行事を中心に学校に来ていただいています。セミナー参加者の声で「近くに学校があることは知っていたが、どうやって学校に関わっていいか窓口が分からなかった。今回はそのきっかけを作っていただいた。もっと早くこういう機会を設定していただきたかった。」

学校に気軽に足を運んでもらう機会を設定し、ボランティアを育成する事の重要性が分かった。今後は生徒の居住地での活動に参加できるよう、コーディネートすることが課題です。

（５）質疑・交流

大変短い時間でしたが、肩肘の張らないきたんのないご意見やご質問が数多く出され、あっという間に時間が過ぎていった気がします。ご意見の中に本校の平成１２年度の実践が１３年度に途切れてしまった点について厳しいご指摘がありました。私たちはこれらのご意見を真摯に受け止め、これからの活動に向かう決意を新たにいたしました。

４　アンケートより（主なもの）

（１）開閉会式について

①今回、近隣校のＰＴＡとして参加させていただきました。大変暖かく迎えていただきありがとうございました。学校の皆さんの心が伝わりました。

②今回の主旨がＰＴＡ会長の挨拶でよく分かりました。

（２）講話について

① 今回の講話を聞き、障害児とのふれあいの時間を共有し、自然に構えることなく今自分が住んでいる地域がなっていけばいいなあと思いました。

②バイタリティーあふれる活動に、ただただ「すごい！」と思いました。自分で動く、そして地域の方々に理解していただけることができない自分にもイライラします。誰かがやってくれるのを待つだけではいけないと言われるのですが、なかなか積極的にできません。

③永田さんのご講演はやはり障害を持つ子の親のお話として聞け、私たち健常者として考えていた以上に前向きなことに気付かせていただきました。

④地域活動について、地域で生きることについて知ることができ、本当に良かったと思います。

⑤大変勉強になりました。さすが東京は進んでいるな、というのが実感です。帯広養護学校の校長先生のお話しも分かりやすくて良かったです。

⑥永田さんのお話は保護者の方へ、そして私たち教師に、これからどのような思いを持ちながら地域で生きるための支援をしていけばよいか、とてもためになる助言をいただきました。親の立場を中心に、実際の活動を通して感じられたことは、これからも様々な努力をしていかなければならないと、迷う一つの答えを出してくれたような気がします。当たり前の生活ができる地域を私も目指します。

⑦親として同じ立場でお話しいただいた永田さんの講話は身につまされ、共感できるものが多々ありました。秋山校長先生の講話では、親としてどのように行政と関わったらよいのかというヒントがいくつもありました。どちらにしても親が動かなければ何も変わらないとの実感でした。

⑧永田さんの講話は、豊かな語り口、人に対する愛情表現と、とても素晴らしいものでした。参加して良かった。

⑨「社会に出たら・・」という言葉を私自身使うことが多かったのですが、実は生まれてからずっと社会の一員であり、地域とともに生きていることを、今回の講演を聞いて改めて感じ、考え直さなければと思いました。このような機会がもっとあってもいいと思います。

（3）実践報告について

①勉強不足で、この場所にこんな学校があることも知りませんでした。こんなに近くに学校があるのなら、何らかの形でもっと理解を深めて触れ合うことができたらいいなあと思いました。家庭でも今日の感想を子どもに伝えたいと思います。

②札幌高等養護学校の報告、残念でした。継続していなかったのはとても残念でした。星置養護学校の今後の活動に期待しています。

③もっともっとボランティアの交流があっていいと思います。開催する側は準備が大変かも知れませんが、このような機会がもっとほしいですね。

④素晴らしい実践でありながら、うまく続けられなかったなどありましたが、今後に期待します。

⑤札幌高等養護学校のビデオを見て「一緒に楽しめたし、何かをしてやるのではなく、ともにその場を共有することがボランティアなのだということが分かった」という参加者の言葉が多かったことにボランティア養成講座を実施したかいがあったと思います。

（4）質疑・交流について

①活発な意見・質問が飛び交い、素晴らしかったと思います。今後の問題もクローズアップされて良かったと思います。

②本音で話し合いが行われたと思います。

③どこの学校でもそうだと思いますが、継続は難しいというところでしょうか。本校でも課題ですが、でも、養成講座を是非頑張って継続させていただければと思います。

④親が動くことの重要性を感じさせられる意見がとても参考になりました。

⑤ボランティアの場作りは真剣に考えなければ・・・・。

（5）今後の全知Ｐ連の子育て支援事業に期待すること

①全知Ｐ連の事業だが、今後、北海道知Ｐ連の事業の中に位置づける必要がある。

②今後このようなセミナーがあれば参加したいと思います。私の勉強になります。自己実現（啓発）ですね。

③現在の活動をより一層推進していただき、都市部だけでなく地方にまで波及させていただければと思います。

④ＰＴＡのネットワークを構築し、親の力を結集して具体化させてほしい。自分も協力します。

5　今後の展望

この子育て支援事業が全知Ｐ連の事業でありながら、北海道知Ｐ連がこの事業に関して理解が十分でありませんでした。平成１５年度は北海道知Ｐ連の事業として位置づけるために早急に役員会を開き、北海道としてこの事業を推進していくよう話し合いを進めていきたいと考えています。